

Keywords : 心理療法、フォーカシング、教育相談体制

◆研究概要等

27年間の教育委員会勤務を含む高等学校での教員生活や長年の心理臨床活動などを活かして実際に児童生徒・保護者、教職員、クライアントの役に立つ実践的な研究を目指してきました。

心理臨床の深い営みについて人々の成長に寄り添う研究を行い、研究成果について専門家以外の人々も理解し活用できるようにすることが大切と考えています。

人の心というものは、理解できたと思ったとしても、実は全く理解できていなかったのだと後になって気づくことがあります。研究対象には常に謙虚に向き合うことが必要です。

心理系専攻

教授

こいずみ りゅうへい

小泉 隆平

koizumi@socio.kindai.ac.jp



■研究テーマ等

1. 心理療法における態度や方法に関する研究

心理療法が効果的であるためのクライアントとセラピストの態度はどのようなものか？

クライアントが向き合えないテーマを心理面接でどのように扱うことができるのか？

人の話を聴くときに何が起きているのか？

そのような問題意識をもって心理臨床の営みを臨床心理学、なかでもPCA(Person-Centered Approach)やフォーカシングの立場から研究しています。

どの学派においても重要な心理臨床活動の中核となる人との関係性のもち方について扱っています。そこで起きていることをからだで感じ取り、実感をもつことを大切にしています。

2. 学校教育相談体制に関する研究

学校における公的な児童生徒支援体制に加えて、教職員等による自然発生的な児童生徒支援チームが学校内でどのように効果的に機能するか？

校内教育相談事例カンファレンスの効果的な方法とは？

集団教育における個別支援の位置付けと個別支援を行う教職員の負担感の軽減への工夫とは？

保護者との円滑なコミュニケーションのあり方とは？

以上のようなことに関心をもって研究を行っています。

実際に学校現場と連携して生徒の学校適応の向上に役立てるよう共同研究を行っています。

●主な論文・著書・表彰

- 1 本間友巳・内田利広・小泉隆平ら 不登校・ひきこもりと居場所 2006年12月 ミネルヴァ書房
- 2 小泉隆平 学校からの報告(7)別室登校をどう考えるか 「子どもの心と学校臨床」第8号 pp.144-152 2013年2月 遠見書房
- 3 小泉隆平 不登校女子高校生との同一セラピストによる母子並行面接 2005年6月 日本心理臨床学会「心理臨床学研究」第23巻第2号 pp.244-255
- 4 小泉隆平 亡くなった母親のイメージを追い続けて不登校傾向になった女子高校生との面接過程 2008年6月 日本学校教育相談学会「学校教育相談研究」第18号 pp.62-68
- 5 小泉隆平 クラス担任を中心とした自然発生的援助チームで支えた男子高校生の事例ー教師カウンセラーの果たす役割と工夫ー 2009年6月 日本学校教育相談学会「学校教育相談研究」第19号 pp.4-12
- 6 小泉隆平 復讐心を淡々と語る男子中学生との面接過程ー「第二の皮膚」の特徴をフォーカシング的態度につなげる工夫 2010年10月 日本心理臨床学会「心理臨床学研究」第28巻第4号 pp.467-478
- 7 小泉隆平 摂食障害の女子高校生への援助事例ークラス担任の負担感の軽減に着目してー 2011年7月 日本学校教育相談学会「学校教育相談研究」第21号 pp.24-31
- 8 小泉隆平 クリアリング・ア・スペースを活用したフォーカシング技法の有効性ー問題の核心に直面することを避ける女子高校生の事例をとおしてー 2014年6月 日本学校教育相談学会「学校教育相談研究」第24号 pp.14-22
- 9 小泉隆平 問題の核心に向かい合えず、そのテーマについて語れないでいた女性との面接過程ー“Thinking About”とノートテイキングを用いてー 2014年9月 日本人間性心理学会「人間性心理学研究」第32巻第1号 pp.45-56
- 10 中川靖彦・小泉隆平 児童虐待に係る教職員研修の効果検証に関する研究 2016年12月 日本学校ソーシャルワーク学会「学校ソーシャルワーク研究」第11号 pp.30-40
- 11 東日本大震災支援業務に対する感謝状(京都府知事) 2011年9月
- 12 東日本大震災支援業務従事職員等に対する顕彰(京都府教育委員会) 2011年11月

▲趣味等

山歩き、自然(温泉)や音楽に浸ること

◆ゼミの宣伝等

よく遊びよく学ぶゼミを目指しています。

メッセージ

・まずは先行研究をしっかりと読むことが大切です。皆さんには多くの文献を読んでまとめることを期待します。

・心理学は人を対象に研究をします。研究対象に対して熱いハートで真面目に取り組みつつ、同時に対象との距離をとって客観的に扱える力を求めます。

